

QSK 福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会
〒812-0046
福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50
電話092-292-0560 F A X 092-292-0561
e-mail: fksr1974@fukuseiren.com
ホームページ http://www.fukuseiren.com/
No. 200 令和7年1月1日

あけましておめでとございます。皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。
昨年は、福精連の創立50周年記念式典並びにみんなねっと九州沖縄ブロック福岡大会を、多くの皆様のご協力を得て、無事大成功裡に終えることができました。
心から感謝申し上げます。
大会テーマでありました「未来をひらく」これからの地域ケアの充実と実現を目指し、まずはこれからの10年へ向けてのスタートの年であると捉え、努力邁進してまいりますので、皆様の更なるご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。
大会の挨拶でもふれましたように、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム(通称・にも包括)の構築がうち出されて8年目に入ります。
私たちが家族が望むのは、当事者が地域で安心して暮らせる社会です。大会で基調講演をしていただいた高木俊介氏は、「つは他人を信用できる人であること、もう一つは暮らししていくために生活の支えがあること。」



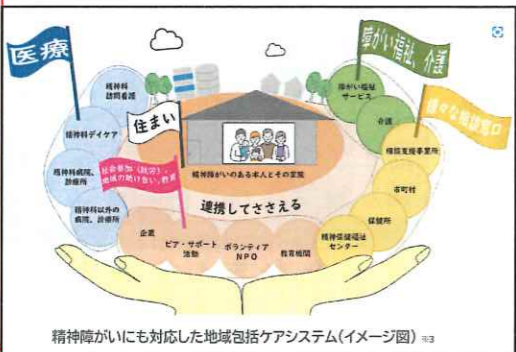
新年のご挨拶

公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会

会長 檜橋 恭一



この二つがあれば親亡き後は心配ない。」と言われましたが、この二つのことを実現するためにも「にも包括」は重要であると思います。
厚生労働省が作成した「にも包括」のイメージ図のように、当事者・家族をとりまく様々な団体の横の連携が必要だと思えます。
また、構築推進のための事業の中に「アウトリーチ支援に関する事業」があります。まだ我が家から外に出られない方も多いので、これも重要ですが、診療報酬改定で、ACTが多職種チームを編成できにくい状態にあると聞きました。一つ一つを検証していくと、「にも包括」だけでも多くの課題があり、実現までには、まだまだ遠い道程だと思えますが、声を上げ続けるのが福精連の使命だと思っておりますので、これからも頑張ってください。



福精連50周年記念式典(11/21福岡市)にて左記の6団体・7名の方に感謝状を贈呈させていただきました。
(一社) 福岡県精神科病院協会様
・寿防炎工業(株)様
・エイテックス(株)様
・(株)ちくしの郷・匠様
(医) 同仁会 乙金病院様
(医) 桜珠会 可也病院様
・松本 國寛様
・早川 栄悟様
・一木 猛様
・山口 由紀子様
・野澤 重信様
・阿部 利民様
・樋口 靖則様
・野澤 重信様(希望の色・木もれ日)
・野澤 重信様(希望の色・木もれ日)
【福岡県地域精神保健協議会長表彰】
・鈴木 久子様(中央区のみ会)
・判田 章江様(福岡あけぼの会)
・陣内 伸廣様(みつば会)
・井ノ口 名美様(ハイジ福祉会)
皆様の長年の活動、活躍に感謝と敬意を表します。
誠に改めてとつございました。
そして、当会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。



月刊「みんなねっと誌」を購読しませんか

賛助会費(購読料を含む)
個人 年間3,600円
※団体は一部還元があるのでお問い合わせを

郵便振込先
加入者名 みんなねっと
口座番号 00130-0-338317

電話番号 03-6907-9211



賛助会員加入のお願い

令和6年度の賛助会員の募集を行います。皆様のご協力よろしく
お願い致します。

年会費: 個人 3,000円
団体 10,000円

郵便局振込先
加入名: (公社) 福精連
口座番号: 01760-7-84332

※福精連への賛助会費・寄付金は確定申告の際の寄付金控除の対象になります。

家族のための相談電話

【相談時間】13時~16時

- ・月曜日 090 (1366) 7498
- ・火曜日 080 (3986) 1980
- ・水曜日 080 (1729) 1950
- ・木曜日 080 (1729) 1950
- ・金曜日 080 (1729) 1955
- ・土・日曜日・祝日 9時~16時 080 (1729) 1955

一人で抱えずお電話ください
※令和6年4月より水曜日の電話番号に変更があります



行事案内

- 【精神保健福祉家族・支援者研修会】令和7年1月9日(木) 14時~16時
テーマ「家族の今とこれから」
- 【第2回 運営委員会】福精連事務局 令和7年1月16日(木) 15時~
- 【家族・職員研修会】13時半~15時半 令和7年2月14日(金) オンライン
- 第一部: 「滝山病院へのアプローチ」
- 第二部: 「家族を支える実践」
- 【第2回 運営委員会】福精連事務局 令和7年3月7日(金)
- 【第4回 理事会】 令和7年3月21日(金)
- 【予算総会】 令和7年3月21日(金)

左記団体様より支援金をいただきました。心より感謝申し上げます。(順不同)
福精連精神科病院協会様
福岡県共同募金会様
福岡県共同募金会様
寿防炎工業株式会社様
株式会社福岡マック様
エイテックス株式会社様
株式会社ちくしの郷様

令和6年度賛助会員の皆様

- ・株式会社 ちくしの郷・匠
- ・医療法人 紫陽(こ)からクリニック
- ・医療法人 西江(こ)のクリニック
- ・パナソニック松九会(下段へ続く)



令和6年度賛助会員の皆様(続き)

- ・医療法人 富松記念会 三池病院
- ・こころころクリニック
- ・社会福祉法人ほつと福祉会
- ・寿防炎工業株式会社
- ・医療法人 陽山会 丸野クリニック
- ・油山病院 家族会 あけぼの会
- ・医療法人 みらい 筑紫野病院
- ・一般社団法人ちはやACT
- ・医療法人 要会 かなめクリニック
- ・社会福祉法人 福岡あけぼの会 しのめ
- ・医療法人 社団 松和会 門司松ヶ枝病院
- ・医療法人 和光会 一本松すずかけ病院
- ・一般社団法人 Q-I-A-C-T
- ・医療法人 信和会 大牟田保養院
- ・島手そうめん販売株式会社
- ・有限会社 ティ・ケイ・デイ
- 〈個人会員〉(敬称略・順不同) (令和6年12月25日現在)
- ・一木 猛
- ・石河 定子
- ・鈴木 久子
- ・福田 清隆
- ・樋口 靖則
- ・松岡 千代
- ・金子 義郎
- ・永末 雄大
- ・伊原 加津代
- ・榎橋 恭一
- ・渡辺 美穂
- ・森川 久美子
- ・内原 守
- ・馬場 由紀子
- ・富田 義之
- ・松本 國寛
- ・津村 美沙
- ・野澤 重信
- ・宮本 政智
- ・本田 俊慧
- ・井上 暁子
- ・斉藤 光子
- ・佐々木 寿美
- ・篤 忠之
- ・木原 聡
- ・犬東 義光
- ・平川 ミドリ
- ・中里 真一
- ・坂栗 さつき
- ・阿部 利民
- ・戸田 俊彦
- ・岡 幸三郎
- ・小野 雄史
- ・後藤 英一郎
- ・六反 敏裕
- ・古屋 岳治
- ・下川 富子
- ・渡邊 千洋
- ・重富 裕司
- ・中間 草太
- ・辻田 雄一
- ・舟越 洋
- ・石田 健治
- ・白石 雄二
- ・廣津 輝男
- ・乙村 未沙貴
- ・菅野 康子
- ・田川 裕二
- ・大平 実男
- ・田原 恭子
- ・国房 稔代
- ・山本 由美
- ・立山 利博
- ・原 久美
- ・川本 茂子
- ・牧 マリコ
- ・隅谷 和生
- ・竹原 純治



【編集】公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 6F
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会 〒812-0068 福岡市東区社領1丁目12番4号
【年会費】3,000円(購読料含む) 定価100円



この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。

みんなねっと九州・沖縄ブロック福岡大会

テーマ『未来をひらく これからの地域ケア』

令和6年度みんなねっと九州・沖縄ブロック大会は11月21、22日の2日間、9年ぶりに福岡で開催されました。当日は、席が足りなくなるほどの会場一杯の盛況で、福岡や各県から約280人が参加しました。

1日目の基調講演は「地域でもに生きる」と題し、ACTIKの高木俊介医師が講演。日本の精神医療の歴史を振り返りながら、共に生きる社会への課題を指摘。豊かな知見をもとに、ユーモアを交えながら歯に衣着せぬ語り、わかりやすく説明しました。



倉知延章さんが特別講演。テーマは「精神障がいリハビリテーションと人権成果と課題」

職のあり方について問題を提起。家族はどうすれば良いのかなど、示唆に富むお話をした。
みんなねっと岡田久実子理事長は、「精神保健福祉への提言」の実現にむけ、国連の障害者権利条約を学び、改革を広く訴え、医療費助成、交通運賃割引、「みんなねっと誌」の普及など、各県連と共に進めていくことを報告しました。

2日目は大会テーマでシンポジウム。倉知延章さんをコーディネーターに、ちはやACTの渡邊真理子医師、Q-ACCTの原奈緒さん、スマイル門司の田原恭子施設長、あかつき家族会の森川久美子さん、うさぎの会の和田幸之さんが登壇し、それぞれの立場から事例を交え問題提起。これからの地域ケアの課題について深め合いました。



(福精連理事 白石雄二記)



本大会開催にあたり、協賛・寄付を賜りました皆様へ御礼申し上げます。心よりお礼申し上げます。

以下、参加者の感想より
◎精神医療だけに頼るのではなく、治らないなりに暮らしてをサポーターする、本人が他者を頼れば、親がなくても生きていける！に共感しました。
◎迷惑なんてお互い様であるという地域づくり、本当にそう思いました。再度パカボンのマンガを見直してみようと思います。生きるすべを見つかるために。
◎精神疾患を「治す」ではなく、いっしょに暮らせるようにという思いで、これからは生活を続けていきたいと強く思いました。精神科病院だけが課題ではなく、社会全体を変えていかなければならないのだけれど、そのためにはまず娘(本人)の希望ということに立ち戻り、家族、地域に広げていきたいと思いました。

◎精神医療の実態が良くわかりました。高木先生の医療の考え方に共感しました。感動しました。待ち望んでいたお話でした。◎施設、病院から地域へ、本人を主体に、バスターナリズムを排していくこと。支援する立場として、みんなちがってみんないい、対応に苦むことも多いですが、ひるまない、あきらめない、希望を引き出す支援の大切さ。
◎医療や福祉を経済優先で捉えることの怖さを知った。
◎家族会、当事者の方のお話は共感できました。医療機関をはじめ、包括的支援が進められるのを期待します。
◎家族はどうすれば良いかを参考に、毎日の生活を考えていこうと思えます。
◎今まで支援の在り方を振り返って反省する点に気づいた。
◎ACTが地元であればいいなと思えました。活動に力をつけていきたいです。



福精連50周年記念式典御礼

令和6年11月21日(木)10時より福岡県中小企業振興センターにて福精連創立50周年を記念し、式典を行いました。

式典にあたり、檜橋会長より挨拶がありました。「福精連は1974年に設立され、精神障がい者とその家族の福祉向上のために活動してきました。初代から現会長まで多くの方々の尽力により発展。これまでの経緯を経て、精神障害が障害者として認識されるようになり、法整備も進んでいます。依然として偏見や地域間格差といった課題が残っています。今後、精神障がい者やその家族が安心して暮らせる社会を実現するため、努力を続けていく所存です。ご指導ご支援を賜りますようお願いいたします。」



来賓挨拶では福岡県副知事 大曲昭恵様、北九州市保健福祉局長 坂元光男様、福岡市保健医療局保健所長 田中雅人様、福岡県議会議員 松本國寛様、福岡県精神科病院協会副会長 大村重成様よりご祝辞をいただきました。精神障がいの福祉施策や家族会活動の重要性が強調され、関係者の努力に感謝。精神障がいの理



解と支援が広がることを願うお祝いの言葉が贈られました。
その後、長年精神保健福祉の向上のために、また、当会の活動に「理解・ご支援いただいた方々へ感謝状を贈呈いたしました。(贈呈者は1ページに記載)
最後に「50年の歩み」を動画で振り返りました。「ご多忙の中、多くの来賓の皆様、会員の皆様にご出席いただき、50年の節目をお祝いできました。事を誠に感謝申し上げます。今後とも何卒宜しくお願い致します。」

みんなねっと北海道大会 (令和6年10月12日)

「対話を家族のものに」孤立から支援の輪の中～あたらしいつながりを求めて

今年のみんなねっと全国大会は北海道で開催されました。基調講演では、べてるの家理事長 向谷地生良氏から「自分自身でもリソースとしての当事者家族の経験の可能性」というテーマのもと、当事者たちの経験談を共有しました。向谷地氏は、病気の経験を通じて得られる価値について語り、病気を単なる苦痛ではなく、そこから学び取ることができるものとして捉える重要性を強調されました。病気によって生じる様々な感情や思いは、しばしば行き場を失ったものとして現れますが、実際にはその裏に大切なものが潜んでいると述べ、研究活動を通じてその理解を深めることができる。また、異なる立場の人々が互いに繋がり、持っている生きにくさや問題をもち寄ることで、地域社会の力を高められると提案されました。このようなネットワークを築くことで、弱い立場にある人々が持つ必要な経験を活かし、家族が地域の中心となつて住みやすい町を目指す大きな構想を持っています。さらに、全国大会や家族会を通じて、様々な人々が繋がりが広がることを期待していると話されました。

- べてるの家の理念
1. 和解の時代(とき)
 2. 弱さを絆に
 3. 病気の足を引っ張らない
 4. 病氣も回復を求めている
 5. 手を動かすより、口を動かす
 6. 勝手に治す自分の病氣
 7. 自分の苦勞を取り戻す
 8. 地域のために
 9. "公私混同"のすすめ
 10. 社会復帰から社会進出へ
 11. 物を売らない。顔と名前を売る
 12. べてるの繁栄は地域の繁栄
 13. 「作業」から「商売」へ
 14. 過剰も捨てたもんじやない
 15. 降りてゆくまき方
 16. 安心して絶望できる人生
 17. 三度の飯よりミーティング
 18. 利益のないところを大切に
 19. 一人一研究
 20. 経験は「宝」
 21. いつも途上一べてるの目標は、いつも「べてる」
 22. それで頑張る!

特別講演 淑徳大学 伊藤千尋氏 「家族会の可能性」
変革は小さな声から
家族会の原点は分かち合いです。分かち合いは支える、支えられるが緩やかに入れ替わるもので、この体験が積み重なって結果として家族がリカバリーされるもの。家族のリカバリーに、ピアの力が欠かせないように、本人のリカバリーにもピアの家族会の力が必要です。
本大会のテーマ対話できる場が家族会であり、小さな声が生まれるのが家族会。小さな声を小さなまま話せる場所でもあり、また小さな声をききかけにこの繋がりを作れる場所が家族会であり、個人的な問題と躊躇せず、自分が抱えている問題を誰かに伝えていく必要があると述べられました。
家族会の高齢化や会員減少、役員不足が問題視される中、会員が増え、安定して活動している家族会もあり、その理由は関係機関との協力があると述べられました。日頃から顔の見える関係を築いておくと、家族会の事も相談しやすく、本人や家族の言葉こそが、家族支援に関心のある支援者を育ててくれると話されました。
最後に、家族会は家族のためにある事、まず自分自身が楽しめる場所を作ることが大切であると話されました。来年は令和7年9月6日京都で開催です。

